

学級活動指導案

呉市立昭和西小学校
指導者 教諭 香川 隆太

- 1 日時・場所 平成 24 年 9 月 14 日～平成 24 年 10 月 26 日
- 2 学年・学級 第 5 学年 3 組（男子 14 名，女子 17 名 計 31 名）
- 3 題材名 「♡（ハート）の学習」
内容 （2）ウ 望ましい人間関係

4 題材について

（1）児童の実態

本学級の児童は、明るく活発な児童が多い。学級内には自由な雰囲気があり、児童同士が盛んに交流し合い、自分が思ったことを発言することができる。そのことから言い合いになることはあっても、お互いが暴力をふるうようなトラブルに発展することは少ない。

反面、規範意識が低く、ルールを守りにくい。相手がどのように思っているのかを考えて発言したり、行動したりすることができにくい。また、カッとなったときに、自分の感情をコントロールすることができずに、時と場を考えない言動をする児童も見られる。相手に対する言動によって、さらにトラブルになることもある。児童一人一人に耐性がなく、感情をコントロールする力が育っていないと考えられる。

（2）題材設定の理由

小学校学習指導要領（平成20年）の第 6 章特別活動では、学級活動の目標を「学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。」と示されている。

また、小学校学習指導要領解説特別活動編（平成20年）の学級活動の「学級活動の内容（ウ）」において、望ましい人間関係の形成の指導として、社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れることが考えられると示されている。

そこで本活動では、児童の実態を踏まえ、相手のよさに気付いて声をかけるスキルや相手の気持ちを知るためのスキル、自分の感情をコントロールして落ち着いて行動するためのスキルなど、トラブル解決のためのスキルを習得することができるよう指導する。さらに、習得したスキルを学校での様々な教育活動を通して強化し、実際に日常生活の場で生かすことができるよう継続した指導を行う。

これらの活動を通して、児童一人一人が自分のよさを生かして生活できるように、また、互いを認め合い、協力して活動に取り組むことができるように、対人関係能力と自尊感情を育成することを目的とする。

5 題材の目標

- 相手のよさに気づき、適切な表現によって相手を認めることができる。
- 自分の感情表現の中で不適切な表現方法の有無に気づき、感情の適切な表現方法を選択できる。
- 相手の気持ちを理解することの重要性に気づき、相手の気持ちを知るスキルを活用して相手の気持ちを理解することができる。
- 怒りや強い衝動を感じたときに、すぐ行動することの危険性に気づき、「こころの信号機」モデルを活用して、落ち着いて行動することができる。
- トラブルが生じたときには、自分も相手も納得する解決方法を見つけるための話し合いをし、「トラブル解決のポイント」を活用して、問題を解決することができる。

6 事前の活動

- 事前アンケートを実施し、自分自身の学校生活や気持ちなどを振り返り、望ましい人間関係を形成するための社会的スキルを身に付ける必要性を意識する。

7 指導計画（全5時間）

次時		活動の内容	目標	評価規準（評価方法）
第一次	第一時	○ほめ方のポイントを理解し、元気が出る言葉をかける。 ○ほめるときに活用する仲間に声をかけるポイントを理解する。	相手のよさに気付き、適切な表現によって相手を認めることができる。	適切な表現によって相手を認めることができる。 （観察・ワークシート）
	第二時	○自分の行動を振り返り、不適切な行動の有無に気づく。 ○気持ちの伝え方のポイントを理解する。	自分の感情表現の中で不適切な表現方法の有無に気付き、感情の適切な表現方法を選択できる。	自分の感情を適切な表現方法で選択することができる。 （観察・ワークシート）
第二次	第一時	○「相手の気持ちを知るヒント」を理解する。 ○気持ちを表す演技を見て、相手の気持ちを推測する。	相手の気持ちを理解することの重要性に気付き、相手の気持ちを知るスキルを活用して相手の気持ちを理解することができる。	相手の表情やしぐさ等から相手の気持ちを理解することができる。 （観察・ワークシート）
	第二時	○「相手の気持ちを理解する」について考える。 ○強い衝動を感じたときに落ち着いて行動するための「こころの信号機」モデルを理解する。	怒りや強い衝動を感じたときに、すぐ行動することの危険性に気付き、「こころの信号機」モデルを活用して、落ち着いて行動する。	落ち着いて行動するための方法を理解し、実行することができる。 （観察・ワークシート）
第三次	第一時	○トラブルの対処法を振り返り、自分で解決することの重要性に気付く。 ○「トラブル解決のポイント」を理解する。	トラブルが生じたときには、自分も相手も納得する解決方法を見つけるための話し合いをし、「トラブル解決のポイント」を活用して、問題を解決することができる。	自分に合った問題解決の方法を選択し、実行することができる。 （観察・ワークシート）
	第二時			

8 学習内容（3／5時）

第二次 第二時 「相手はどんな気持ち？」

（1）日時 平成24年9月28日（金） 第6校時

（2）本時の目標

相手の気持ちを理解することの重要性に気付き、相手の気持ちを知るスキルを活用して相手の気持ちを理解することができる。

（3）準備物 掲示物 ワークシート

<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~koizumi/newpage14-2-primary.html>

(4) 本時の展開

学		学習活動	○指導上の留意事項
		学習活動	○指導上の留意事項
学 習 の 展 開	導 入	1 友達の気持ちが分からなくて、困った経験について話し合う。 2 本時の目標を確認する。 相手の気持ちをとらえよう	◇ 日常生活での友達の気持ちについて考えさせる。
	展 開	3 「相手の気持ちを知るヒント」を知る。 4 声を聞いて気持ちを推測する。 ○様々な気持ちで「おはよう」と言い、声の特徴をとらえる。 5 表情写真を見て気持ちを推測する。 6 しぐさを見て気持ちを推測する。 7 状況のイラストを見て、気持ちを推測する。 ほめ方相手の気持ちを知るヒント ”シカ“の”こま“ ①しぐさ ②かおの表情 ③こえの大きさ ④まわりの様子	◇ プリントの挿し絵(壊れている自分の工作物を見て涙を流している男子の姿)を見て、気持ちを推測させる。 ◇ 「おはよう」という言葉から「悲しい」、「怒った」、「うれしい」などに分けて発表させる。 ◇ 声から相手の気持ちを知ることができることをおさえる。 ◇ 顔には気持ちを表す特徴があることをおさえる。同じ表情でも複数のとらえ方があることに留意する。 ◇ ペアでロールプレイをする。 例：一方が悲しい演技をし、もう一方はどんなしぐさをしているかを見て、相手の気持ちを考えるようにする。 ◇ 状況の分かるプリント(掃除をせず遊びに行く二人を見ながらほうきをもつ自分の姿などの絵)を提示し、周りの様子を見て、相手の気持ちを考えるようにする。
	ま と め	8 「相手の気持ちを知るヒント」を使って、相手の気持ちを推測する演習をする。	◇ 演習の意図が分かるようなモデリングをする。
	開	9 本時で学習したことをまとめる。 ○これからの生活に「相手の気持ちを知るヒント」をどのように生かしていくかを考え、ワークシートに記入する。	◇ 相手の気持ちを知るヒント「“シカ”の“こま”」を確認し、今後の実践で生かすことができるよう助言する。

9 事後の活動

- 一定期間、学習したスキルを学校生活の中で生かしているかどうか、個人目標に沿って自己評価及び相互評価する。(朝の会・帰りの会等)

引用文献

小泉令三 (2011) :『子どもの人間関係能力を育てる SEL-8S① 社会性と情動の学習 (SEL-8S) の導入と実践』 ミネルヴァ書房

小泉令像・山田洋平 (2011) :『子どもの人間関係能力を育てる SEL-8S② 社会性と情動の学習 (SEL-8S) の進め方 (小学校編)』 ミネルヴァ書房